

e-learning 入学前課題に関する研究

Research on e-learning Pre-enrollment Assignments

池村 努

北陸学院大学 社会学部 社会学科

Hokuriku-gakuin University Faculty of Social Sciences Department of Sociology

Email: ikemura@hokurikugakuin.ac.jp

あらまし：2021年度から入学前課題としてeラーニング教材のラインズドリルを導入した。導入にあたり、前年の2020年度から短期大学部コミュニティ文化学科で試行的に導入し、フィードバック（声掛け）が課題実施に役立つことを認識した。それを受けて2021年度本格導入に反映した。2023年度にも継続して導入しており、今後はその推移についても研究を進める。

キーワード：遠隔授業，eラーニング，フィードバック，ラインズドリル

1. はじめに

本学では2021年度から入学前課題としてラインズドリルを「HGドリル」として導入した。ラインズドリルはオンラインで基礎学力強化ができるリメディアル教育専用eラーニング教材である。オンライン教材は受講者の意欲により積極的に活用することもできれば、あまり効果を得られない場合もある。積極的に課題に取り組ませるための方法としてこれまで「声掛け」について研究を行い、学生の意欲向上に効果があることが確認できた。次に本来の入学前課題の目的である、入学後の学習に資するものであることの確認が必要となってきた。そこで本研究では入学前課題への取組状況と、基礎学力テスト結果との関係を確認しまとめる。

2. 入学前課題と基礎学力テスト

一般的に学校推薦型選抜や総合型選抜などいわゆる「年内入試」合格者は、一般選抜受験者と較べて進路決定時期が早い。12月には進路が決定し、残りの高校生活に空白期間が生じることになる。高大連携会議の中でもこのことが取り上げられ、多くの私立大学で入学予定者に対して何らかの入学前課題を準備することになった。本学でも初年次教育の一環として、2008年の4年制大学立ち上げ時から入学前の課題を整備し、年内入試合格者に課してきた。

また、基礎学力テストについても入学後の言語科目クラス分けなどに用いるために継続して行っている。2022年度からは対面実施からオンラインテストに変更して実施している。オンラインテストにすることで、入学予定者は春休み期間中に自分の好きなタイミングでテストを受けることができるようになっている。

2023年度には本学は改組を行ない、4年制大学3学部4学科体制になった。それに伴い入学前課題と基礎学力テストについても若干の変更を加えることになった。基礎学力テストでは国語と英語のテストを行い、「英語」および「日本語基礎」クラスの割り振りに用いている。

春休み期間中にウォーミングアップ学習というプレ入学プログラムを行っており、大学の授業に対する不安感を少しでも減らす取り組みを行っている。その中で学生スタッフによる説明が行われており、HGドリルについてのアドバイスも取り入れられるようになっている。

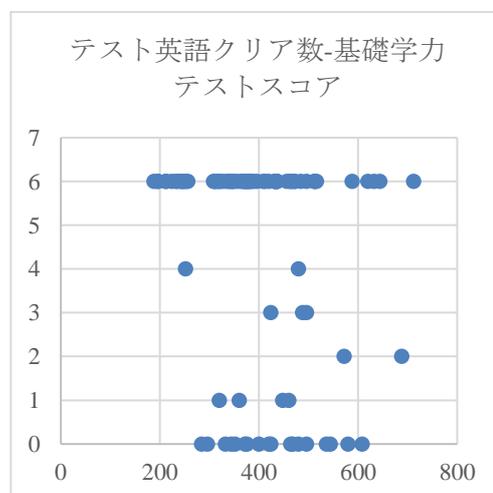
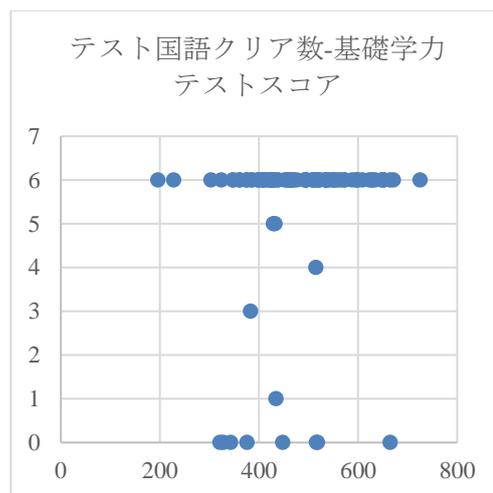


図1 クリア数-基礎学力テストスコア

3. 2023 年度入学前課題と基礎学力テストにおける関連性

ここで、入学前課題と基礎学力テストにおける相関関係について考えてみる。元来この二つはそれぞれ独立した性質のものであるが、過去には「入学前課題を行うことが、基礎学力テストに向けた努力になる」と説明したこともある。そこで確認を兼ねて相関関係を調べてみた。

3.1 入学前課題達成状況-基礎学力テストスコア

基礎学力テスト科目である「国語」と「英語」のスコアについて、達成状況との関連を確認した。HGドリルは6つのジャンルに分かれて出題され、それぞれにおいて確認テストで100点を取ることで完了となることから、達成度は0～6で表示される。また基礎学力判定テスト（JCC）は800点満点でスコアのみが開示されている。

課題にきちんと取り組み、規定の課題をクリアした学生は、基礎核力テストで良い成績を残しているのではないかという仮定のもとで、入学前課題対象者のみをサンプルにグラフ化した。両者の関係に相関は見られなかった（図1）。

3.2 入学前課題完了日-基礎学力テストスコア

同様に、入学前課題を終了したタイミングが早いほど、基礎学力テストに向けた意欲があり、良い成績を残しているのではないかという仮定のもとで、最後にドリルを行なった日を入学前課題終了時期として基礎学力テスト国語・英語両方のスコアとの間で相関をとった。こちらも両者の関係に相関は見られなかった。

4. 2023 年度入学前課題実施状況とアンケート結果

2023年度の入学前課題達成状況は以下の通りとなっている。改組による学部構成が変わっているため直接的な比較はできないが、達成率は概ね前年通りとなっている（表1）。

表1 課題達成状況

2023年度	幼児教育学科	初等中等教育学科	社会学科	栄養学科
課題対象者	20	11	33	31
課題終了者	9	8	23	19
達成率	45.0%	72.7%	69.7%	61.3%

昨年度から導入した「HGドリル学習計画表」を今年度も用いて、学生が主体的に計画を立てていくことができるような工夫を行なった。また各学部を担当者を置き「声掛け」を継続して行っている。

HGドリルに対するアンケート結果は表2の通りとなった。なお2020年度と2021年度は試行期間だったため一学科に対してのみアンケートを実施した。

2023年度についても「満足」「やや満足」が8割を超える結果となっているが、前年度より若干低下しており、その分「やや不満」が増加していた（表2）。

表2 満足度調査結果

	2020年度*	2021年度*	2022年度	2023年度
満足	36.4%	16.7%	28.9%	28.8%
やや満足	36.4%	61.1%	55.3%	52.5%
やや不満	27.3%	16.7%	10.5%	15.3%
不満	0.0%	5.6%	5.3%	3.4%
回答総数(人)	11	18	38	59
履修者総数(人)	35	34	136	95

※ 1学科のみアンケート実施

課題についての質問「入学前課題で課された課題は難しかったですか。」では「簡単だった」が0名で、「どちらかというとなんが難しかった」「難しかった」が46名だった。また科目によって難しかったという回答が多くみられた。課題のレベル等について検討が必要と思われる（表3・表4）。

表3 入学前課題で課された課題は難しかったですか

簡単だった	0
どちらかというとなんが簡単だった	13
どちらかというとなんが難しかった	34
難しかった	12

表4 HGドリルの出題レベルはどうでしたか

簡単だった	2
科目によっては簡単だった	22
難しい科目があった	27
難しかった	8

5. まとめ

前年に引き続き、入学前課題として導入したライズドリルの実施状況向上を目指して声掛けを行なっている。定期的に声掛けをすることは学内でも定着してきた。学習者の意欲を向上させる上で、効果があることは確認できた。しかし学部単位で担当者による声掛けを行っていないことから、頻度の確認が行えていない。また、出題レベルについての課題が新たに見えてきた。入学前課題実施率の向上と併せて、満足度向上に繋げられるよう、検証を続けたい。